

ハイフィールド通信5月号

人はなぜ勉強するのか



先日、とある SNS を見ていたところ、興味深い投稿が目につきましたので紹介させていただきます。

“勉強をなぜするのかを親に訊いたときに、コップを指して「国語なら『透明なコップに入った濁ったお茶』、算数なら『200mlのコップに半分以下残っているお茶』、社会なら『中国産のコップに入った静岡産のお茶』と色々な視点を持てる。多様な視点や価値観は心を自由にする」というようなことを返された。”

皆さんはどう感じましたか？この問いに唯一無二の絶対的な答えはありませんが、この投稿主の親御様の感性には非常に共感できるものがありました。皆さんも家の人や先生に訊いてみてください！

勉強法の確認

新年度が始まり、早二週間が過ぎました。学級開き・授業開きも終わり、そろそろ本格的な授業が始まっているはず。そこで今回は、絶対にしてほしくないNG勉強法を確認していきましょう。

① 板書ノートを写して満足する

→先生の板書をノートやルーズリーフに綺麗な字と色とりどりのペンで写し、まるで参考書のような見やすさにまとめてくれている人がいます。しかし、肝心なその内容が頭に入っていない人をちらほら見かけます。ノートまとめは、学習内容を整理し、後で見返したときにすぐに思い出して実践できるのが理想的です。綺麗なノート=良いノートではないですよ。

② ワークを終わらせて満足する

→テスト前後に提出が義務付けられているワークを、期限の数日前から取り組み始め、ギリギリ提出に間に合わせる人がいます。確かに提出による評価は貰えるでしょうが、ちゃんと問題は解けるようになっているのでしょうか？終わらせることが目的になっていませんか？ワークでの演習を通して、解けない問題へのアプローチを身に着けることが大事なのです。1周、2周、3週と繰り返すことで本当の力が身に付くことをお忘れなく。

他にも例を挙げるとキリがありませんが、そこに共通してくるのが「出来たつもり、やったつもりになる」ということです。心当たりがある方は、今すぐ直していきましょう。